

「支援機関を通じた中堅・中小企業等のDX支援の在り方に関する検討会」

中堅・中小企業のDX支援の取組み ～現状の取組み、課題、今後の方向性～

2023年12月18日

株式会社NTT DXパートナー



1. 自己紹介・会社概要
2. DX支援の取組みと現状の課題、及び今後の方向性
3. DX支援体制、支援人材に求められるポイント
4. DX支援の事例
5. 本検討会への期待
6. 参考

1. 自己紹介・会社概要

2. DX支援の取組みと現状の課題、及び今後の方向性

3. DX支援体制、支援人材に求められるポイント

4. DX支援の事例

5. 本検討会への期待

6. 参考



- **名前：長谷部 豊**
 - **生まれ：石川県加賀市山中温泉**

 - 大学院：AI専攻（自然言語処理）
 - 1998年：NTT入社（1999年7月以降 NTT東日本に所属）
 - 1998年～2005年：**SE（システムエンジニア）**、システム導入プロジェクトマネージャー（対象企業は、医療機器メーカー、楽器メーカー、物流企業、化学メーカー、サービス業等、様々）
 - 2007年～：**新規サービス／事業開発**
 - アプリマーケット、オンライン決済サービス、オンライン学習プラットフォーム etc.

 - 2017年～：起業家育成プログラム企画・開発・運営
 - 2018年～：**中小企業のAI、IoT導入支援、DX推進支援**
 - 2022年1月：**新会社 NTT DXパートナー設立**
-
- 米国ミシガン大学ビジネススクール修了（MBA 2007：経営戦略、新事業開発等）
 - GLOBISマネジメントスクール パートナーファカルティ（経営戦略講師）
 - 中小企業経営者向けDX研修、経営マネジメント研修講師
 - 新規事業開発、地域（山梨、秋田等）ビジネスコンテスト、起業家育成支援・メンター 等

■ NTT東日本グループは、様々な分野の事業を組み合わせ、地域循環型の社会の実現を目指しており、弊社NTT DXパートナーは、中小企業のDX推進を支援。



- 地域の中小企業、自治体、大学のDX推進を、DXコンサルティングから実装、推進まで共創・伴走型でワンストップで支援。

DX コンサルティング

- DX戦略策定(事業変革、まちづくり等)
- UXデザイン(顧客価値・体験等)
- DX人材育成 等

共創・伴走 ワンストップ

DX 実装・推進支援

- デジタルプラットフォーム/システムのデザイン策定、構築・運用
- データ利活用の伴走支援 等

NTT東日本グループ、NTT研究所や
ビジネスパートナーが持つDXノウハウ・技術等

地域の先端技術実証ラボ

スマートメンテナンス技術

...

データ分析、デジタル
研修ノウハウ

セキュリティ監視・運用センター

地域活性化・社会課題解決
新たな価値の創造

1. 自己紹介・会社概要
- 2. DX支援の取組みと現状の課題、及び今後の方向性**
3. DX支援体制、支援人材に求められるポイント
4. DX支援の事例
5. 本検討会への期待
6. 参考

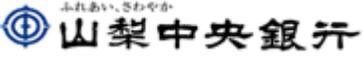
(事例) 山梨DX推進支援コミュニティ

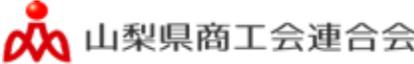
- NTT DXパートナーをリーダーに、山梨県内の金融機関、経済団体、教育機関、IT関連企業等（全14団体）でコミュニティを結成し、県内企業のDX推進を支援
- コミュニティの会員数は110社超、個社別DX相談の実績は40社超（2023年9月末時点）

 **山梨県内の企業** 会員数110社超

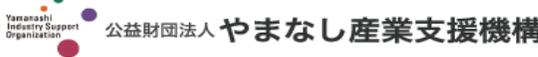


DXの学び合いコミュニティ(寺子屋的)プラットフォーム











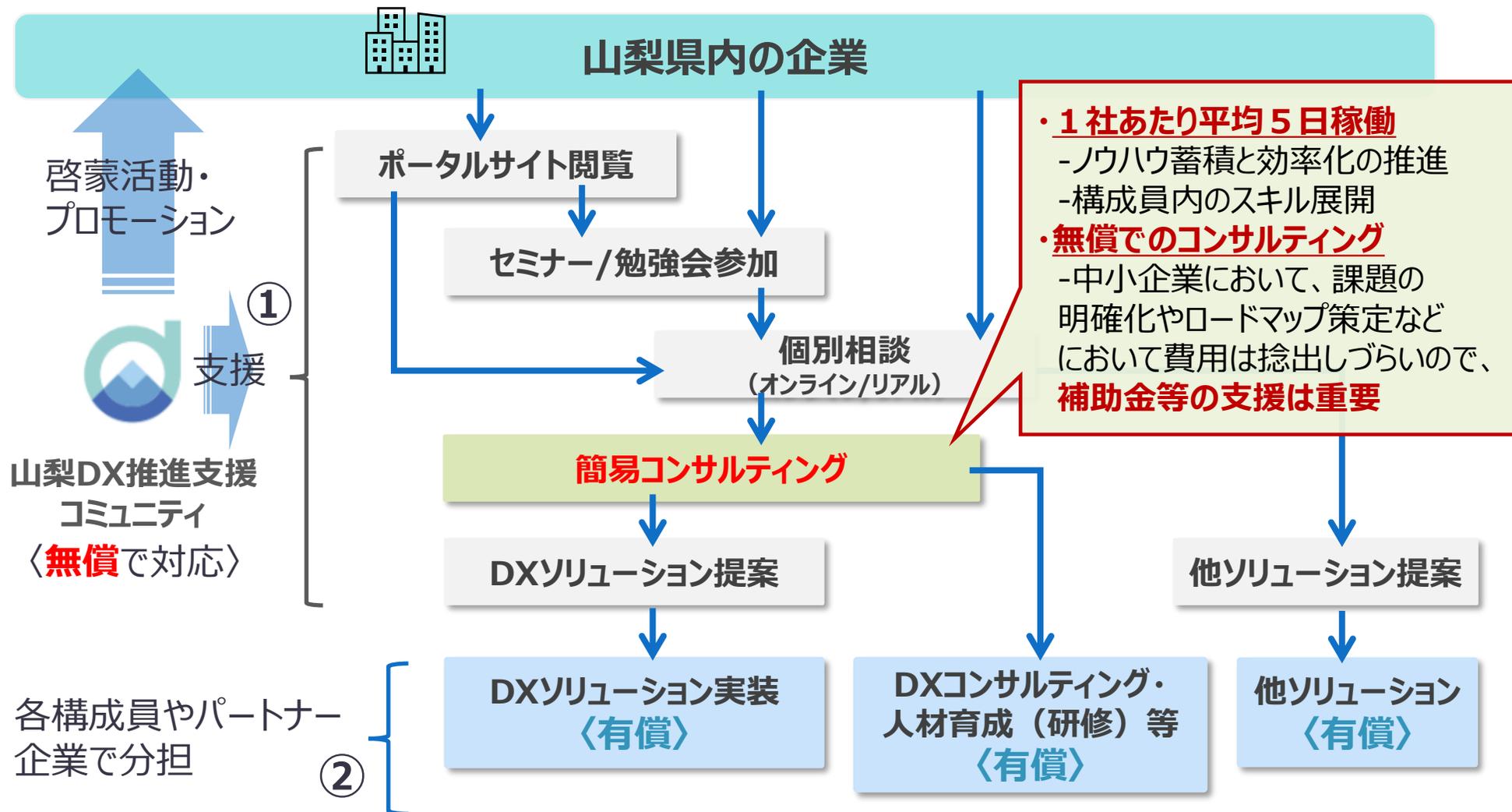



セクター横断でそれぞれの強みを持ち寄り相互連携

構成員企業（14団体）

(事例) コミュニティでのDX支援フロー

- ① 個別相談への対応、課題整理、アドバイス、ソリューション目利きは無償支援
- ② 本格的なDXコンサルティングやソリューション実装は別途有償にて対応



(事例) 山梨DX推進支援コミュニティが目指す姿

- DXに対する不安・抵抗感がある中小企業に寄り添いDX推進の支援を行う。実際にDX推進中の企業が実践知を共有し、企業同士が共に学び、成長しあう姿を目指す



山梨DX推進支援コミュニティ

DXを「知る・学ぶ・相談できる」

DXセミナー/研修 個社別DX相談 ビジネスマッチング



ポータルサイト
(コミュニティサイト)



相談窓口

DX事例

セミナー情報

交流掲示板

...

DXの理解～導入・実装まで伴走支援

県内企業の現状

孤立



不安

DXに対する不安・抵抗感があり、どこに相談するべきかわからない

目指す姿

繋がり



コミュニティでDXに成功した企業
県内企業のDXを牽引（教え学びあう）



県内企業



県内企業



県内企業

自信

企業同士が有機的につながり、
デジタルを活用した
ビジネス創出/課題解決ができる

(事例) 学び合いの活動の推進

- 山梨県の先進DX推進企業の経営者に登壇してもらい、事例・交流を通じて学ぶ
- オンラインコミュニティを活用して、リアルな悩みと対応策についてカジュアルに議論

地元DX先進事例から学ぶ

- 山梨中央銀行 田中常務取締役登壇
 - ラッキー・アンド・カンパニー 望月社長登壇
 - 株式会社ササキ 佐々木社長登壇
- 現地工場・オフィス見学

イベント時にオンラインコミュニティへ誘引

経営者・DX推進担当者必見！

山梨中央銀行の取組みから学ぶDX

デジタルトランスフォーメーション

2022.12.20(火) 14:30-16:00

山梨中央銀行 常務取締役 田中教彦氏

参加費無料 <申込はこちら>

経営者・DX推進担当者必見！

DX戦略

デジタルトランスフォーメーション

2023.2.27(月) 14:30-16:00

株式会社ラッキーアンドカンパニー 代表取締役 望月直樹氏

参加費無料 申し込みはこちら↓

主催 山梨DX推進支援コミュニティ

対象者

- ✓ 山梨県内の企業
- ✓ DXに興味がある方
- ✓ 新しいことに挑戦したい方

場所

甲府商工会議所 2階
×
オンライン(ZOOM)

当日のプログラム

- 山梨DX推進支援コミュニティ紹介 14:30-14:35
- 山梨県内のDX事例紹介 14:35-15:10
 - 山梨中央銀行さまのDX推進への取り組み他
- 県内企業へ向けたDX支援体制 15:10-15:40
- DX専門家との無料個別相談会(任意) 15:40-16:00

※プログラム内容は変更になる可能性があります

主催 山梨DX推進支援コミュニティ

対象者

- ✓ 山梨県内の企業
- ✓ DXに興味がある方
- ✓ 新しいことに挑戦したい方

場所

甲府商工会議所 2階
×
オンライン(ZOOM)

当日のプログラム

- 山梨DX推進支援コミュニティ紹介 14:30-14:35
- 山梨県内のDX事例紹介 14:35-15:10
 - 株式会社ラッキーアンドカンパニーさまのDX戦略 他
- DX戦略に必要な顧客志向の考え方と具体例 15:10-15:40
- DX専門家との無料個別相談会(任意) 15:40-16:00

※プログラム内容は変更になる可能性があります

地元企業の学び合いコミュニティ

週3~5回の頻度で投稿

DX悩み人の集い

その悩み、コミュニティで解決しませんか？

注目！

イベントレポート

参加者の投稿

いいね！やコメントバック

DX相談窓口

- 中小企業のDX推進に向けた主な課題を以下のように認識し、対策ノウハウを蓄積中。
- また、中小企業に対するDX支援組織の不足に対し、地域で活躍できる人材育成や、地域の企業同士が学び合い自走化するための仕組みを構築中。

中小企業のDX推進に向けた課題

①DXの必要性を感じていない

②相談する窓口がない

現在、実施中の対応策

DXの認知拡大に向けて下記を実施

-**無料**セミナーの開催

例) 産官学金コンソーシアム(山梨DX推進支援コミュニティ)
自治体主催のDX推進 (デジベース松本) 等

-**無料**研修の実施

例) 自治体主催のDX人材育成
(山梨県主催のDXマインド醸成研修)

・**経済団体等と連携した窓口を設置**

例) 山梨DX推進支援コミュニティ、デジベース松本、
福島県須賀川商工会議所 等

中小企業のDX推進に向けた課題

③課題の明確化とその対策を
自社単独で講じることが難しい

④DXを支援する組織、支援
者の不足

⑤各地域の企業同士が学び
合い、持続的に発展する
仕組みがない

現在、実施中の対応策

・第三者活用のメリットを伝え、伴走支援を実施
-個社別の**無料**DX推進支援

例) 山梨DX推進支援コミュニティ、デジベース松本、
奈良県のデジタルマーケティング伴走支援、
学生と連携した新たな価値創造、デジタル活用支援 等

・地域金融機関、ICT事業者の支援者育成
-DX研修講師の育成

例) 山梨県主催のDXマインド醸成研修

-DX伴走支援ノウハウの展開

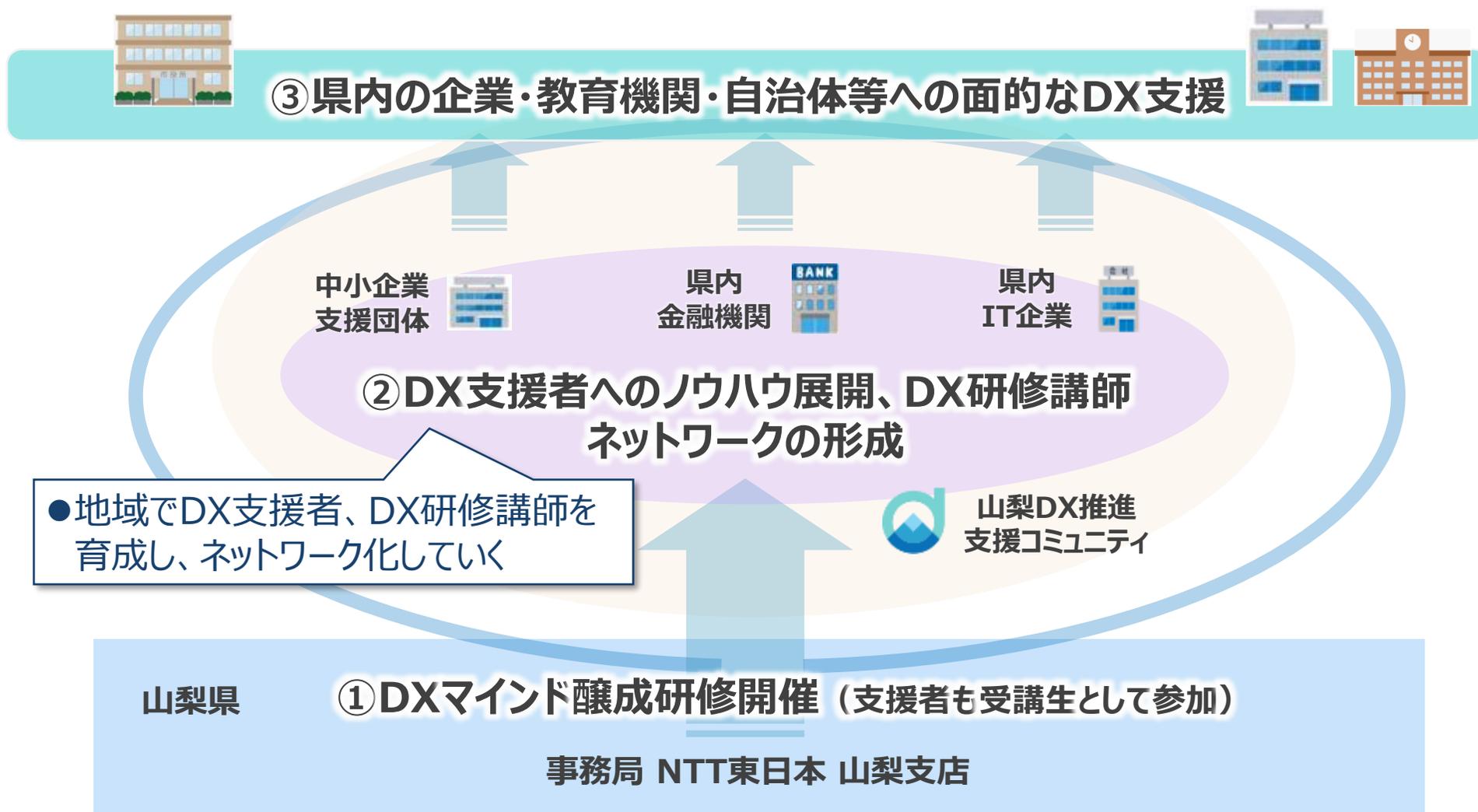
例) 山梨DX推進支援コミュニティ

・地域の企業同士が学び合う仕組みの構築

-DX実践企業が他の地域企業のDX推進に協力

例) 山梨DX推進支援コミュニティ

- DX支援人材、研修講師の拡大に向けて、県内の金融機関、IT企業への講師育成プログラムを用意し、県内企業のDX推進に向けた講師ネットワークを形成中



1. 自己紹介・会社概要
2. DX支援の取組みと現状の課題、及び今後の方向性
- 3. DX支援体制、支援人材に求められるポイント**
4. DX支援の事例
5. 本検討会への期待
6. 参考

■ DX支援人材の育成、支援体制の確立について、以下のように考えている。

No.	課題	対応ポイント
1	支援人材に求められるスキル	<ul style="list-style-type: none"> ・ほとんどの中小企業はDXのスタート地点であり、DXリテラシーの理解、浸透を支援できることが重要（DXリテラシー標準全体を統合的に理解し、現在地とゴールを分かりやすく伝え、DXマインドを醸成するスキル） ・あくまで伴走支援。相手への共感力、ファシリテーションスキルが必要 ・デザイン経営とDXを一体的に支援できると非常に効果的である
2	支援人材の確保、育成	<ul style="list-style-type: none"> ・支援チームの一員として参画してもらい、現場実践を通じて体感しながら学んでもらう。ICT企業のIT人材、ITコーディネーターや金融機関、中小企業診断士等の支援機関の経営指導員の方々を育成することが近道
3	支援機関同士の連携（支援者コミュニティ形成）	<ul style="list-style-type: none"> ・支援者コミュニティが肝と考えている。基本的なベースノウハウを支援者コミュニティに提供し、コミュニティを引っ張る支援リーダー企業が必要 ・コミュニティ内でチームを組んで支援し、実践経験をシェアしていく（あらゆるタイプの相談があるため、強みを持ち寄り、チームで対応し、学びもシェアする）
4	支援機関のマネタイズ	<ul style="list-style-type: none"> ・支援側が手間暇かけて手を動かし工数をかけるコンサルスタイルではなく、伴走支援によって、中小企業を投資（変革実行）フェーズに導き、そこでマネタイズ
5	地域DX人材育成エコシステムの形成	<ul style="list-style-type: none"> ・特にB2Cビジネスにおける価値デザインの領域では大学生がアイデア創出、デジタル技術の実装で貢献が期待できる。大学生が身につけたスキルは中高生へ還元し、地域でDX人材育成エコシステムを形成

1. 自己紹介・会社概要
2. DX支援の取組みと現状の課題、及び今後の方向性
3. DX支援体制、支援人材に求められるポイント
- 4. DX支援の事例**
5. 本検討会への期待
6. 参考

- EC・デジタルマーケティングによる事業拡大というテーマで、奈良県の中小企業が伴走支援者をつけてDXを推進

奈良県の中小企業7社（食品メーカー、部品メーカー等）

EC・デジタルマーケティング勉強会

▲1回目 ▲2回目 ▲3回目



2022年8月～10月

DX推進計画策定

11月～

顧客価値の再定義
(ブランドコンセプトの策定)

DXツール選定、導入
(ECサイト)

2月～

SNSマーケティング等

12月～1月

マーケティング検討

ECサイト立ち上げ、
デジタルマーケティング
の自走化

店舗DX検討

専門チームが伴走支援

NTT DXパートナー

応援購入
プラットフォーム



小売DX
パッケージメーカー

SNSマーケター

取引先金融機関

- 各事業者様は伴走支援チームに想いを共有し、事業拡大に向けての**ゴールや戦略・戦術**を支援チームと策定



DXロードマップ策定

～研磨材料メーカーの国広産業様の事例～

～3か月

3～9か月

1年～

1～2か月



戦略

ブランド
コンセプト開発

売上目標
設定

プロダクトデ
ザイン作成

試作品
作成

プロモーション
強化施策

売上拡大施策
※顧客との接点増

戦術



EC・SNS企画・立ち上げ

EC・SNS運用
※ファン候補を地道に作る



ブランドコンセプト開発

中長期で対象とする顧客

顧客が共通して抱える
本質課題

課題に対する理想を定義
(目指す姿)

何を提供しているのか

最も重要な提供価値

顧客からどう思われているか
(コアならしさ)

売上目標



- 月次売上100万円の達成を目指す
- 継続して成長させるモデルを模索

- デジタルマーケティングの自走化に向けて、支援チームのノウハウを吸収しながら、ECサイトやSNSアカウントの作成は事業者様が実施

～研磨材料メーカーの国広産業様の事例～

ECサイト



※SNS総フォロワー数：約2,000人、リール動画：1.5万回再生数の獲得

(参考) Makuakeでの初回販売の結果

- 研磨材料メーカーの国広産業様が開発した新製品は、Makuakeの総合ランキングで5位/936を獲得。

The image shows a screenshot of a crowdfunding campaign for a product called 'stone speaker'. The main banner features the text 'stone speaker' and '石で聴く。無電源スピーカー、誕生。' (Listen with stone. Powerless speaker, born). Below this is a play button icon and the 'stone+' logo with the tagline '暮らしに石を。ときめきを。' (Bring stone to life. Bring joy.). The product is shown as a sleek, black and white speaker on a wooden surface. To the right, a dark panel displays campaign statistics: '応援購入総額' (Total amount of support purchases) at 3,628,000円 (3,628,000 yen), which is 2418% of the '目標金額 150,000円' (Target amount 150,000 yen). It also shows 'サポーター 451人' (451 supporters) and '残り 終了' (Remaining: ended). A large button at the bottom of the panel says '終了しました' (Ended). A row of small thumbnail images is visible below the main banner. At the bottom of the screenshot, there is a caption: '石の響きが音を奏でる無電源スマホスピーカー、誕生 | 暮らしに石を。ときめきを。' and a set of hashtags: '#インテリア #スピーカー #スマホ #ガジェット #日本製'.

stone speaker
石で聴く。無電源スピーカー、誕生。

stone+
暮らしに石を。ときめきを。

応援購入総額 3,628,000円
目標金額 150,000円
2418%

サポーター 451人
残り 終了

終了しました

石の響きが音を奏でる無電源スマホスピーカー、誕生 | 暮らしに石を。ときめきを。

#インテリア #スピーカー #スマホ #ガジェット #日本製

https://www.makuake.com/project/stone_plus/

- 山梨では支援コミュニティでチームで対応することで、様々な業種の多岐に渡るご相談を受け、支援している (これまで40社超の個別支援。デジタル化の領域が多い)

企業	実施内容
食品製造	<ul style="list-style-type: none">酒税の申請業務において俗人の紙管理になっているので業務稼働の可視化し、効率化をしたい
産業機器製造	<ul style="list-style-type: none">親会社から業務効率化、紙の削減 (デジタル化) の指示があったが、現在業務の可視化もできておらず、業務可視化からサポートをしてほしい
食品製造	<ul style="list-style-type: none">DX推進チームを発足し、全社課題の棚卸を行ったが、「導入済みのツールが活用されていない」などの課題が見つかった。全社DXの推進をするための相談に乗っていただきたい
情報機器販売	<ul style="list-style-type: none">社内業務 (請求処理等のバックオフィス業務) のペーパーレス化を実現したいワークフロー系のSaaSを導入したいが、選定のサポートをしてほしい
小売	<ul style="list-style-type: none">顧客 (来訪されるお客様) へ向き合い、新たなサービス・商品を開発する時間を生み出すために、既存の顧客管理、在庫管理、PoS等の改善をたく、どういったツールが良いか相談したい
教育機関	<ul style="list-style-type: none">自組織のDXを進めたいが、「何から、どの部署から、どう推進すればよいか」相談したい
食品製造	<ul style="list-style-type: none">会社全体でDXを推進したい。その上で越境ECなど取組みたい新たな事業創出の前にまずは目の前の業務のデジタル化、BPRをしたい

1. 自己紹介・会社概要
2. DX支援の取組みと現状の課題、及び今後の方向性
3. DX支援体制、支援人材に求められるポイント
4. DX支援の事例
- 5. 本検討会への期待**
6. 参考

■ 以下について、今後検討会で考慮して頂けると幸いです。

- ① DXリテラシー標準を統合的に理解し、DX推進の総合的な相談を受け付け、支援できるDXマスター/コーディネーター（仮称）の認定（認定取得者への補助等も）制度を設けてはどうか。
- ② DXリテラシー標準の学習内容に沿った具体的な学習コンテンツを経産省様で制作して公開してはどうか。現時点で「統合的で質の高いコンテンツが殆ど無い」ことが問題。（市中にはパーツ・パーツのコンテンツが多く、全体がどう繋がるか、経営、デジタルの両面で一筆書きできるようなコンテンツが必要）
- ③ 上記コンテンツの活用をベースとした支援者向けフレームワークを今後の支援者向けガイダンスに組み込んではどうか。（現状、多くの支援者がDX支援に自信が持っていないため、自信を持って支援できる武器が欲しい状況）
- ④ 地域DX促進環境整備事業のようなDX支援機関グループ*を予算面で支えてくれる補助金を立て付けて頂きたい。

*1機関単独ではなく、コンソーシアム等支援機関グループ単位に予算をつけ、地域内で支援ノウハウの蓄積・共有を促す